



# 古高だより

自主自立 敬愛和協 明朗端正 勤勉誠実

鹿児島県立古仁屋高等学校

〒894-1508

鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋399番地1

[TEL] 0997-72-0034

[FAX] 0997-72-0057

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/koniya/

## <第71回 卒業式>



令和3年3月1日、本校体育館にて第71回卒業式が挙行されました。本年度の卒業生は25名でした。

校長は式辞で「夢を実現できる人は、自分の中の不安を克服し、粘り強く挑戦し続ける人であることを心に刻んで、夢に向かって一歩、一歩しっかりと歩いて行ってください。」とエールを送りました。改めて、御卒業を祝すとともに、卒業生の皆さんが輝ける未来に向かって大きく羽ばたいていかれることをお祈り申し上げます。



卒業生の胸にコサージュとともに飾られた丸いバッチ。家庭クラブ委員が私たちと共に過ごした古高での日々を忘れないでという思いを込めて、大島紬を使ってに作製しました!

教育委員会賞 岩崎賞 高文連芸術文化賞 古高会賞



静岡いずみさん



十倉弘丞さん



喜村怜さん



喜屋武豊之さん

県コミュニティづくり 学校部門 優秀賞



静岡いずみさん

十倉弘丞さん

安江海都さん

1か年皆勤



春琴葉さん, 中村ひなたさん, 静岡いずみさん  
喜屋武豊之さん, 尾崎準作さん

3か年皆勤



喜村怜さん, 諫山あずささん, 村田海音さん, 伊村暁さん

創立90周年記念 第10号(最終回)

## 「郷土の高校!古仁屋高校のあゆみ」

### これからの歩み「地域みらい留学」

このコーナーでは、古仁屋高校の創立から今日までの歩みを振り返ってきました。なかでも、本校は昭和5(1930)年に大島郡東方村立古仁屋家政学校として誕生し、古仁屋小学校の校庭西側に所在していたこと。昭和19(1944)年3月、鹿児島県古仁屋高等女学校(校名変更あり)第1回卒業生は卒業後すぐに北九州の軍需工場へ挺身隊員として動員され、そこで亡くなった方が多く、在校生も塹壕掘り(須手)、芋植え(瀬久井)、奄美大島陸軍病院(現:古仁屋中学校)の手伝いなどに従事していたこと。昭和25(1950)年、戦後復興最優先の時期に「新制高等学校設立など時期尚早だ!」、「名瀬の高校への進学は負担が大きすぎる。ぜひ地元で新制高等学校設立を!」と激論の末、「新制古仁屋高等学校」設立で決着したこと。これらは風化させてはならない郷土の記憶です。瀬戸内学校組合から鹿児島県へ設置者は変わりましたが、瀬戸内の人々が設置し、育ててきた本校に対する思いは現在も受け継がれています。

現在、本校は瀬戸内町と連携し、一般財団法人「地域魅力化プラットフォーム」の行う「地域みらい留学」(日本各地域にある魅力的な学校に入学し、充実した高校生活をおくること。豊かな自然、ココロでできない体験、少人数教育など都道府県の枠を超えて挑戦できる取組)に参加しており、全国に向けて本格的に入学の門を開いている県立高校3校の中の1校です。参加3年目の今年は、留学生と地域との交流もさらに深まり、寮が所在する清水地区以外でも瀬戸内町出身の生徒とともに地域行事の維持及び活性化に貢献しています。このように、古仁屋高校の「これからの歩み」は地域の皆様と手を取り合いながら一歩ずつ前へ進んでいます。(教頭 吉井秀一郎)

<参考・引用文献> 創立50周年記念誌(1981年 鹿児島県立古仁屋高等学校創立五十周年記念事業実行委員会)  
瀬戸内町誌 歴史編(2007年 瀬戸内町誌歴史編集委員会)

## <令和2年度 進路体験発表>

2月17日、体育館で3年生が進路に関する体験談を発表し、1,2年生にアドバイスをしました。

今年度は、コロナウイルス感染症の影響で試験内容の急な変更などがあり大変だったこと、何事も早めに取り組むことの大切さなど後輩に伝えました。



## <大会報告>

第42回県高等学校新人サッカー競技大会  
1回戦 古仁屋 0-4 尚志館

第51回県高校新人バスケットボール大会  
男子 1回戦 古仁屋 - 鹿児島第一(不戦勝)  
2回戦 57-40 鶴翔  
3回戦 66-87 大島  
女子(古仁屋・奄美・喜界・沖永良部合同チーム)  
1回戦 古仁屋 45-89 鹿屋農業

令和2年度県高校春季ソフトテニス選手権大会  
男子団体(古仁屋・奄美・神村合同チーム)  
1回戦 古仁屋 2-1 指宿商業  
2回戦 0-3 鹿児島商業  
女子団体 1回戦 古仁屋 0-3 鹿児島実業